

竹原市予算特別委員会

平成31年3月7日開議

審査項目

- 1 議案第1号 平成31年度竹原市一般会計予算
- 2 議案第4号 平成31年度竹原市港湾事業特別会計予算
- 3 議案第5号 平成31年度竹原市公共下水道事業特別会計予算

【建設部】

(平成31年3月7日)

出席委員

氏 名	出 欠
堀 越 賢 二	出 席
井 上 美 津 子	出 席
下 垣 内 和 春	出 席
今 田 佳 男	出 席
竹 橋 和 彦	出 席
山 元 経 穂	出 席
高 重 洋 介	出 席
川 本 円	出 席
道 法 知 江	出 席
宮 原 忠 行	欠 席
吉 田 基	出 席
宇 野 武 則	出 席
松 本 進	出 席

職務のため会議に出席した者は、下記のとおりである

議会事務局長 住 田 昭 徳

議会事務局係長 矢 口 尚 士

説明のため会議に出席した者は、下記のとおりである

職 名	氏 名
建 設 部 長	有 本 圭 司
建 設 課 長	大 田 哲 也
都 市 整 備 課 長	西 吉 八 起
下 水 道 課 長	藤 本 嗣 正

午前9時55分 開議

委員長（堀越賢二君） 皆さんおはようございます。

ただいまの出席委員は12名であります。定足数に達しておりますので、これより第5回予算特別委員会を開会いたします。

前回到引き続き、部ごとの詳細審査を行ってまいります。

本日の建設部については、一般会計以外に特別会計もありますので、一般会計、特別会計の順に審査を行います。

建設部長より、担当部所管事業について説明を求めます。

建設部長。

建設部長（有本圭司君） 改めまして、おはようございます。

委員の皆様におかれましては、連日の個別審査大変お疲れさまです。また、建設部関係の個別審査を本日はよろしくお願いいたします。

それでは、建設関係の主な6事業について、当初予算（案）の概要資料において、こちらの資料になりますけど、こちらの資料によりまして説明をさせていただきます。

着座にて説明をさせていただきます。

まず、7ページをお開きください。

重点テーマであります平成30年7月豪雨の災害からの早期復旧・復興に向けた主な事業として、下段にあります公共土木施設災害復旧事業についてです。国の補助を受けられる規模の164件の被災箇所について本格的な復旧工事を実施するものでございます。事業期間につきましては、昨年11月に策定いたしました竹原市復旧・復興プランに基づいて、災害を含めて3年での復旧工事を完了させることとしており、優先度の高い箇所から随時復旧工事を実施する予定でございます。事業といたしましては15億1,250万円を計上させていただいております。

次に、8ページの上段にある農林水産施設災害復旧事業についてです。

本事業は国の補助を受けられる規模の117件の農地、農業施設、林道といった被災箇所について復旧工事を実施するものであります。復旧期間につきましては、竹原市復旧・復興プランに基づいて、災害を含めて3年での復旧工事を予定しております。事業費といたしましては2億7,130万円を計上させていただいております。

次に、10ページの上段にある大規模盛土造成宅地調査事業についてです。

平成7年の阪神・淡路大震災、平成16年の新潟中越地震、平成23年の東北大震災で

は、大規模に谷や沢を埋めた造成地で多くの宅地や公共施設等に甚大な被害が発生いたしました。今後も南海トラフ地震などといった大地震の発生が懸念されていることから、地震の被害を未然に防止しあるいは軽減して、宅地の安全性を確保することは重要であります。そこで、本事業は宅地造成工事規制区域内の大規模盛土造成宅地の場所と規模を把握し、それらを示したマップを作成するものでございます。そうして作成したマップ等の情報を公表し、住民の防災意識の啓発や災害時の迅速な対応につなげ、市民の安心・安全なまちづくりを推進するものでございます。事業費として920万円を計上させていただいております。

次に、下段にあるひろしま「山の日」県民の集い開催事業についてです。

広島県では、毎年6月の第1日曜日を山の日として県民の集いを開催しており、第18回目となる今年は竹原市をメイン会場として実施することとなっております。本市における開催の趣旨といたしましては、身近な森林や山への親しみを感じるとともに、平成6年に本市で発生した林野火災から今年で25年目の節目の年であることから防火への啓発と、昨年7月の豪雨災害からの復旧・復興に向けてのイベントとして開催するものでございます。具体的な内容といたしましてはバンブー公園を会場として記念植樹、山登り、森林整備講習、竹工芸、地元特産品の販売を予定することとしております。財源につきましては広島森づくり交付金300万円を活用するものでございます。事業費といたしましては400万円を計上させていただいております。

次に、12ページの上段をごらんください。

将来像1の自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する、賑わいのある個性的なまちにおける景観計画策定事業についてです。事業の概要といたしましては、歴史的な建造物の維持や周辺の自然景観と一体となった町並み形成を図り、歴史・文化の継承や観光資源を核としたまちづくりを進めるために、景観法に基づく景観計画を策定するものであります。そのために平成31年から32年の2カ年でアンケートなどによる市民意識の反映や外部の有識者による策定委員会形式により計画を策定する予定といたしております。事業費として882万円を計上いたしております。なお、本事業につきましては当初30、31年の2カ年で予定しておりましたが、災害対応等を優先にするため1年延伸するものでございます。

次に、21ページ下段をごらんください。

将来4の瀬戸内の恵まれた風土と市民の絆のもと、誰もが安全・安心で快適に生活でき

るまちにおける公共下水道雨水対策事業についてです。雨水管の整備を行うことにより近年の局地的な短時間集中豪雨による浸水被害を軽減するものであります。工事概要といたしましては、中央1丁目、2丁目地区において本年度までに直径1メートルのヒューム管を布設した残工事として、マンホールの設置及び上流における側溝の整備等を行っていく予定といたしております。事業費といたしましては3,100万円を計上させていただいております。

以上、よろしくお願いたします。

委員長（堀越賢二君） それでは、建設部長より説明が終わりましたので、質疑を行ってまいります。

これから一般会計、これから歳出費目を審査していきますが、その審査過程において特定財源である歳入に対する質疑がある場合は、歳出にあわせて質疑をしていただきますようお願いいたします。

では、ページ147をお開きください。

農林水産業費、農業費、農地費、こちらの3番、生活改善センターに要する経費を除くその他の事業になります。

質疑のある方は挙手願います。

高重委員。

委員（高重洋介君） それでは、質問をさせていただきます。

農業用施設ということで農業用水路についてなのですが、こちらの竹原災害復旧瓦版という市のものがあるのですが、農業用施設は40万円以上が災害とみなされるということで、40万円以下の農業用水路についてならここで聞くべきかなということで聞かせていただきます。

まず、この農業用施設は40万円以上でないと災害とみなされないというその理由と、どういうふうな判断かをお聞きいたします。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 40万円以上のまず理由ですが、こちら国の補助の条件というか要綱として40万円以上ということが定められております。また、水路、今回40万円以下の水路等もあります。これについては後ほど出てきますが、農地災害の方でその対応できるような形で予算組みはさせていただいておりますので、後ほど説明はさせていただきますと思います。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 高重委員。

委員（高重洋介君） 後で出る，ここではないということですか。40万円以下，小規模な被害の方，もし答え，ここでなければまたちょっと質問だけさせてもらって。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 災害で被災をした水路また農地については農地災害の方で予算組みをさせていただいておりますので，こちらの方では通常の修繕費として計上させていただいております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 建設課長，その質疑をするところの。

建設課長（大田哲也君） 244ページの農林水産施設災害復旧費です。

委員（高重洋介君） そうですか，一番最後のところですか。

委員長（堀越賢二君） 高重委員，よろしいですか。

委員（高重洋介君） はい，済みません，ありがとうございます。

委員長（堀越賢二君） 松本委員。

委員（松本 進君） 私も農地費の分で1点だけちょっと聞きたいのは，昨年度までずっと継続されてきたほ場整備事業が今回予算がありません。それで1つは，今までずっと継続されてきて今回なくなったというか措置されていないという最大の理由と申しますか，1つは終了したのか，その他そういった計上できない理由があったのかということをおよそ説明していただければと。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 31年度の予算にはほ場整備事業についての予算は計上させていただいておりません。これは，平成29年田万里地区のほ場整備が終了いたしまして，その以降のほ場整備をしたいというような御要望がないということで，現在のところは整備については計上していない状況でございます。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 松本委員。

委員（松本 進君） 今後，要望があれば出てくるかという確認と，それとあと，特に気になったのがこういうほ場整備をやった場合の事業効果の検証というのが，いろいろ尋ねてきたのですが，前は実施が田万里が今終了したということでしたけれども，終了した後

を私の記憶では40年ぐらいかかって検証があるというようなちょっと聞いたのですが、どこで検証しているのがちょっとわかれば一言。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 我々建設部の方としては整備を主に担当しております。今後そうした米づくり，そうした農業振興については部署が変わってきますので，私の方からは答弁を差し控えさせていただきます。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは，148，149ページの樋門維持管理費，これについて質疑のある方は挙手願います。

宇野委員。

委員（宇野武則君） 今回災害で樋門管理が大分問題になったのですが，おそらく定期的にエンジンの点検なんかどのようにしているのか，ちょっとお伺いします。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） こちら予算にも組ませていただいております149ページの13番なのですが，樋門管理委託料，こちら点検業務とあと電気設備の保安の点検の費用として343万1,000円を計上させていただきます。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） 災害の折，そこだけではないと思うのですが，実際エンジンが機能しなかったというようなところが何か所かありまして，それから管理者の指定，やはりある程度使命感を持ってやってもらわないと，非常に距離があって来た折にはエンジンそのものがかからなかったというような事例もありまして，特にそういうものは定期的に受注した者がやってもらうような自覚を持ってもらわないと，せっかく設備した物が稼働しないというようなことがあったら絶対あってはならないことなので，その点について今後どのような指導していかれるのか，その点について伺っておきます。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 貴重な御意見ありがとうございます。

言われるように災害を未然に防ぐためには，やはり日ごろからの点検を強化するという

のは大変重要なことだと考えております。そして、最近では気象状況とかというのは正確に把握できますので、その情報を早目に感知してそれを樋門の管理人と連絡をとりまして遊水池の水位を早目に下げるとか、ごみがたまっていけばそれを除去していくとかそういう形で、今まで以上に管理人とは密に連携をとりながら維持管理に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは、次に林業費に移ります。

ページ150、151の林業総務費について、質疑のある方は挙手願います。

高重委員。

委員（高重洋介君） それでは、私は151ページ、ちょうど真ん中辺です、ひろしま「山の日」県民の集い事業補助金についてお伺いをさせていただきます。

昨年が江田島市、その前が大崎上島町という県内15市町ですかね、の参加で行われて、今年が竹原市がメイン会場ということで6月の第1日曜日ですか、ということでもう3カ月ほどであります。先ほどの部長の方から少し内容があったのですがもう少し詳しく、メイン会場はバンブーだとは思いますが、あとウォーキングでどの辺をウォーキングされるのか、またいろんなイベント等もう少し詳しく教えていただければ、お願いいたします。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） こちら、あくまでも事務局案で申しますと、まず山登りについては竹原市竹原山岳会がございます。そして、現在黒滝山を愛する会、こちらの方にもお声かけをしまして、バンブー公園から高崎山、鎮海山、こちらのルートでバンブー公園から山を1周していただくというような企画を今とっています。

また、ウォーキングについては高山線、こちら傳井先生の所を通って旧佐々木ホテルのあの高山線をウォーキング、こちら余り山登りとなるとやはり体力的なものもありますので、ウォーキングであれば参加がしやすいということで、こちらの方を企画していきたいと考えております。

また、植樹については千本桜の会の方で記念植樹をしていただくような形で考えております。これは、実はもうこの桜を6月に植えるとなれば時期的にちょっと植えつけが難し

いということで、こちら先週大乘小学校と荘野小学校、こちら緑の森づくりの活動をされていますのでその小学生に参加していただいて、あらかじめ植樹をさせていただいて当日記念植樹ということで進めていきたいと思っております。

また、イベント的なものとしては地域の特産品であるとか竹細工、それで竹原の竹を生かした個性あるイベントにしていきたいと考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 高重委員。

委員（高重洋介君） 県内いろんなところからたくさんの方が来られると思いますので、すばらしいものになっていただきたいなということで、昨年この事業を聞いた時に確かにウォーキングという意味で今の旧佐々木旅館、すごく海が見えてきれいでもありますしすごくいい場所だなと、バンブーからも近いということで納得はするのですが、余りどういのですか、急な山とかそういうところは難しいだろうと言われるのですが、山岳会とかこういう山登りが好きな人も来られるとは思うのですよ。その中で昨年私がちょっと有本部長に提案したのが中国自然道、小吹から小梨、ちょうどバンブーからも近い、で山中ですごくきれいなところではあります。ここのちょっと予算的なことを言うのではないのですけど、そこがなぜせっかく自然歩道があるのに使われないのかなと。正直ここの自然歩道整備がされておられません。たしか県の予算は毎年7万円か9万円か草刈りにしているとは思いますが、昨年は草刈りが実施されたらしいのですがその前の年もされてなく、正直ここに資料があるのですが行きどまりになっています。自然歩道のここ、予算ではないのでこれぐらいにはさせてもらうのですが、ここのやっぱりせっかくすばらしいものがあるので、この3カ月あります、ここも利用できるように是非小吹から小梨あたり、このイベントで利用をする考えがあるかをお聞かせください。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） こちらの中国自然歩道、小梨から三原竹原線に抜ける道路でございます。こちら私も平成26年、地元の方とこれを調査してまいりました。言われるように小吹地区についてはある程度の道が整備されているのですが、そこから山を越えておる道というのは整備されていないということで、地元の方でないと道が確認できないという状況でございます。これについては所管の方、産業振興課が中国自然歩道の窓口になっておりますので、そちらの方と協議しながら進めていきたいと考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 高重委員。

委員（高重洋介君） ありがとうございます。

では、最後の質問で、質問といいますかせっかくこういうイベントがあって県内様々なところからたくさんの方がおいでいただけるので、是非すばらしいイベントになるように努力してください。お願いします。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 我々としてもこれからもう時間がない、6月というとすぐですから準備を進めまして、是非とも皆さんが来ていただいて楽しんでいただけるイベントにしていきたいと考えております。よろしくお願いします。

委員長（堀越賢二君） 山元委員。

委員（山元経穂君） 今の高重委員からあったひろしま「山の日」県民の集い開催事業についてですが、今高重委員からの質問があったところでは大体楽しみのイベントというところであると思います。先ほど部長の趣旨説明では後段の部分です、平成6年に本市で発生した林野火災から今年で25年目の節目であることから、防災への啓発と平成30年7月豪雨災害からの復旧、復興に向けてのイベントを開催すると、ここの啓発と豪雨災害からの復旧、復興に向けてのイベントのところの内容を詳しく教えていただければと思います。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） こちら25年前、竹原市で盆にかなり大規模に林野火災が発生しました。我々は記憶に残っておりますが、若い世代、年下の方たちは火事があったということすら覚えていない。小学生もこの前来られてもそういう話をして、啓発というか山を大事にする、防火意識を高めるということで、今回消防署の方にも御協力いただいて、展示パネルであったり、その当時の様子の写真、今ネットの方ではそういう写真も保存されておりますのでそうしたものを改めて拡大するなりして、こういう火災があったということのを忘れない、その経験を生かして今度は防火意識につなげたいというところを啓発していきたいと考えております。

また、昨年の豪雨災害ではこの会場のバンブー公園も被災をしております。そちら6月にはまだ間に合わないかもわかりませんが、そうしたところもやはり確認していただいて、災害から身を守るというか防災意識を高めていただきたいというようなイベントにしていきたいと考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 山元委員。

委員（山元経穂君） よくわかりました。

25年前、私多分高校3年生ぐらいの時だったと思います。課長、消防団に今も入られて、多分この時にも鎮火活動に向かわれたのではないかと思います。そういうところで特に思い入れもあると思いますし、今知らない小学生等に防火意識を高めてもらう、また去年のもう直近ですから豪雨災害もあったって、そういうところで防災意識を高めていただく上で非常に貴重なことでありますので、先ほどの高重委員と同じコメントになるかもしれないが、是非そういうところの啓発も含めて楽しい事業とそういうこれからの竹原市を担っていく子どもたちに思いがある、市民の方にもいろいろとさせていただくような事業にしていだければいいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

委員長（堀越賢二君） 答弁は。

委員（山元経穂君） いいです。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありますか。

下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 151ページの3番、人工林対策に要する費用の中の25番ですが森林環境……。

委員長（堀越賢二君） 委員。今はその上の総務費までとなっておりますので、次になりますので。

委員（下垣内和春君） はい、済みません、では。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは、150ページから153ページに入ります。

林業振興費、これの1番、鳥獣被害対策に要する経費以外で質疑のある方は挙手願ひます。

下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 151ページの3番の人工林対策に要する経費の中の25番、森林環境譲与税基金積み立て、昨年のはこれはなかったわけですが、今年263万9,000円ということを計上されております。どういう意味でされているのか教えていただけますか。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） こちら、国の方が森林環境税というのを平成36年度から課税をされるということで、それに伴って森林環境譲与税、こちらを31年度から各県、市町に譲与されるというものでございます。

これにつきましては、使い道としては間伐や人材育成、担い手の確保、木材需要の促進、普及啓発、森林整備、その他の促進に関する費用に充てなければならないとされておりまして、今回我々としてはこの31年度は基金として積み立てをしまして、後で有効に活用していきたいということで考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 本年度は積み立てをしていく、また次年度以降から実際にそういうことの仕事に当たっていくということでよろしいのですかね。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 今年度積み立てをしまして、こちら国の方が森林経営管理法というのを制定されまして、法律が制定されまして市町が経営管理が行われていない森林を対象に森林所有者、言いかえれば森林所有者が経営とか管理ができていない、またそれを委託したいと申し出があった場合には、それを市を経由してそのノウハウの持たれている森林経営者に再委託をするというような形で今後は進んでいくということで御理解いただければと思います。

委員長（堀越賢二君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 森林も今、災害等で大変な状況になっていると思うので、そういうことを是非とも地道に今後やっていただけますようによろしく願いいたします。

委員長（堀越賢二君） 答弁はいいですか、はい。

ほかに質疑はございませんか。

宇野委員。

委員（宇野武則君） 151の里山林対策に要する経費630万円のうちの里山林の整備委託費、これはどこでどのようなものを整備しているのか、その次の19の里山林対策事業補助金はどこへ支出されているのか、この2点についてちょっと伺います。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 予算書の153ページの里山林整備の委託料500万円の内容

についてでございますが、里山林整備事業につきましては、手入れが不足な農山村地域や都市近郊の里山林について、生活環境及び自然景観の保全を図るため土砂災害防止、生物多様性の保全、鳥獣被害防止、自然との触れ合いを目的とした森林整備でございます。具体的な委託内容につきましては、長期間整備されずに放置された森林を整備する放置林整備や拡大する竹林について発生源対策や森林復旧のための竹林繁茂防止整備などを行ってまいります。具体的には尾三森林組合の方で竹林繁茂防止、こちら昨年までバンブー公園で実施をしております。また、有害鳥獣防止バッファゾーン整備、こちらは里山と農地、その間を整備することによって農作物の被害を防止するというので、平成28年が小梨町、平成29年田万里町、今年度は災害の関係で実施は行っておりません。

また、19番の補助金100万円でございますが、こちら3団体に山の整備費として支給をしております。賀茂川の源流を守るネットワークであるとか、山岳会であるとか、黒滝山を愛する会というようなところへ補助金として交付をさせていただいております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） 今回災害で非常に危険な道路からすぐ上に非常に伸びた木がたくさんあるところがある。実際それで被害が発生しているところもあるのですが、特に竹林です。竹林は全国の大学の先生らが調べて、大体23%が表層滑りの原因になっているのが竹林なのですね。竹林を前回質問するようにしておったのですが、竹原市もよく把握しておらないというような現状もありまして、特に無償で竹林を整備してくれる団体がありますので、やっぱりそういう危険性のところはできるだけ森林組合と連携をとって優先的にやっていかないと、今一番いい例が吉名の平方に通じる道路の上がずっておりますが、かなり大きな木に伸びておりまして、一般の人間が整備するのは非常に困難であるというように思います。下には電線も通っておりますいろいろな家屋もあるわけですから、是非ともこの際ですからそういうところを森林組合としっかり連携をとって優先的にやる場所はやるし、それから今言うように竹林を竹原市の所有地がどれぐらいあるのか担当の者もようわからなかったのですが、やはり有効にやってくれるところもあるのですから、何遍も竹原市に申請したのですが受理されないのですというような話も伺っておりますので、やっぱり民間がそういうやってくれるところはやっぱり民間の力もかりていかないと限られた予算ですから、その点について。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 竹原市，本市面積の約7割が森林を占めております。森林面積といたしましては約3,000ヘクタールのうち，針葉樹，広葉樹を主体とする天然林が約7,000ヘクタール，杉，ヒノキなどを主体とする人工林が約1,000ヘクタールございます。

委員おっしゃられるように，今回の災害では山崩れ，土砂崩れ，多数発生しております。今後こうした森林整備をすることによって森林の保全，水源の涵養，さらには土砂災害の防止など，森林を整備することによりましてそうしたところに土砂災害の防止に取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 民間の活用と連携についてはどうでしょうか。

建設課長。

建設課長（大田哲也君） こちらの森づくり事業，今まで継続的に実施しておりますが，主体としては尾三森林組合の御協力をいただきながら進めております。今後も引き続き森林組合と連携をとりながら森林の整備に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） 今朝ちょっとお話したのですが，鳥取県東部森林組合，これモリオカさんというのだが，市役所の職員さんから紹介されたのだが，竹原市へ移住して森林組合のこういう取組をやりたいというような御意見でしたが，やっぱりこういうものをしっかり取り入れて移住も兼ねているわけだから，やっぱりこれぐらいの予算ではどうもならないから，そういう森づくりに積極的に協力してくれるような人を活用してやるのが有効なのではないかと思えます。その点，お願いしておきます。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは，水産業費に移ります。

154ページ，155ページ，漁港管理費について，質疑のある方は挙手願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは，商工費，156ページからこちらは159ページになります。

商工総務費の4番，工業団地に要する経費の中の19．竹原工業・流通団地送水設備工

事負担金を除きます。

質疑のある方は挙手願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） ないようですので、土木費の土木管理費，土木総務費，164ページから167ページ，こちらの1番，人事管理に要する経費は除きます。

山元委員。

委員（山元経穂君） 165ページの一般事務に要する経費，3番の19．国道432号改良促進期成同盟会負担金と，ここだけにしましょうか，まず。国道432号改良促進期成同盟会負担金2万6,000円，額は少額なのですがこれは一体どんなものに使われているのですか。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） こちら国道432号線，こちら竹原市を起点といたしまして庄原を経由して島根県の松江市，距離として218メートル，山陰と山陽を結ぶ幹線道路でございます。

委員長（堀越賢二君） 218。

建設課長（大田哲也君） 218キロメートル，済みません，訂正します。幹線道路でございます。

こちら現在会長が庄原市長が会長を務められておまして，毎年国への整備に向けての要望を行っている団体でございます。こちらについては今回432号線，竹原市も昨年の豪雨ではかなりの被災を受けて，まだ仮設であるとか車道片側に大型土のうがついてあるというようなところもございます。こうしたことを踏まえまして，こうした機会を捉えまして432号の整備促進また災害の復旧をしていただくように国へ要望していきたいという思いを持っております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 山元委員。

委員（山元経穂君） 負担金というだけあって大体そういうところへ要望していくという活動であることは一定理解していて，そのような御答弁だったのですが，本市ですか，先ほど218キロとって大体庄原，安来，松江のあたり結構きれいに整備されていると思うのですが，竹原市が一番遅れているの，間違っていたらごめんなさい，遅れているのかなというのがあります。実際，今後の進捗についてを伺って。

委員長（堀越賢二君） 建設部長。

建設部長（有本圭司君） 国道432号の整備促進でございますが、基本的には島根県側についてもまだ若干未整備区間があると、特に奥出雲あたりです、まだ現在も工事をしているというのをお聞きいたしております。本市においては数年前に大仙バイパス供用開始いたしまして、現在国道432号の竹原工区といいまして、新庄の交差点から東野の中央橋までの間をちょっと優先的に県の方で用地買収をしていただきまして、おおむね99%ぐらい用地買収が済んでおりますので、今現在東洋コルクの裏の方につけかえ水路の整備等していただいているというような状況ですので、そういったことで少しでも予算をしっかり張りつけていただいて整備促進につなげたいということで、こういった陳情要望活動も本市も国、県と連携しながら行っていきたいというふうに思っていますので、引き続き御理解のほどよろしくお願いいたします。

委員長（堀越賢二君） 山元委員。

委員（山元経穂君） これ、やっぱり結構竹原市から見れば空港まで続いていく道でもありますし、結構市民の期待度も多いので、可能な限り早い進捗を、それと宇野委員がよく言われることではありますが、道路整備はやっぱり物流とかいろんな意味で人の流れを促す意味で大変重要なものでありますので、引き続き要望活動を強く続けていただけるよう要望しておきたいと思います。

委員長（堀越賢二君） 答弁はよろしいですか。

委員（山元経穂君） はい。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは、道路橋梁費に移ります。

168ページ、169ページ、道路維持費について、質疑のある方は挙手願います。

高重委員。

委員（高重洋介君） 169ページ、道路維持費の中の13番、市道維持補修委託料とその3つ下の県道維持補修委託料、この内容を教えてください。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） こちらまず市道維持補修委託料、こちら789万6,000円の内訳でございますが、まずシルバー人材センター、こちらの方へ年間で市道、竹原市が管理している市道300キロメートルの年間を通しての維持管理を委託をさせていただ

ております。また、残り250万円については植樹の管理ということで、主にはバンブー公園までの新内浜小吹線の植樹の管理であるとか、スポット的なところの植樹の管理を費用として計上させていただいております。

他県道の維持補修1,983万円、こちらについては市内の県道6路線を県から委託を受けて市の方が委託業者に委託をしている、していきたいということで予算計上させていただいております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 高重委員。

委員（高重洋介君） ありがとうございます。

県道の方ですね、市内6路線を維持管理、パトロールも含めてですか、これ、ということなのですが、今回の災害で道路が被災、寸断されたところなどもふだんの維持とかパトロールをしっかりしていれば災害に遭わなかった箇所もあると聞いております。やはり何げなしにパトロールなどをするだけではなしに、やっぱりここは危ないぞと思ったら早目な補修とかそういうことをすれば災害に強い道路にもなると思いますので、この維持管理を是非しっかりとさせていただきたいというふうに思います。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 災害を未然に防ぐためには日ごろの維持管理、道路については水路の清掃であったり路面の補修、こちらをしたことによって軽減されたり被害が起きなかったりということとはございます。31年度は日ごろからパトロールを強化しまして、日常点検もいたしまして十分な維持管理に努めていきたいと考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 高重委員。

委員（高重洋介君） 最後の質問とさせていただきます。

維持管理、もうこれは必要ですし、安全・安心なまちづくりという面で是非お願いします。それと今の432でもそうなのですが、185もそうなのですが、夏場草刈りです。他市町も比べるわけではないのですが、どうも2号線から432号の東野上条のあたり、どうしても目立つなというような思いもありますし、そのほか南方線もそうなのですが、いろんところでちょっとそういうふうなものが目立ちます。やっぱり他市町の方から見ても、道路がきれいであれば町がきれいになるし、訪れてみたい町にもなると思いますので、その辺の維持管理もあわせてお願いをいたします。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 県道の維持管理の御質問でございます。

こちら国道432号、空港まで続く国道、こちらについては広島県が管理して今回の委託には入ってございません。しかしながら、そうした地元の要望を受けまして県の方へ積極的に要望してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いをいたします。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） ちょっと確認ですが、その今電線の埋設やっているあの歩道の方は市が管理だろうと思うのですが、その。

委員長（堀越賢二君） 建設部長。

建設部長（有本圭司君） 現在国道185については共同溝、国の方の事業で今していただいています。国道については歩道も含めて国の管理になっています。車道も歩道も国の管理でございます。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） 前回、市、18年やめる前にもずっと指摘しておったのですが、あの歩道を10センチぐらいの竹植えているね、この前ちょっと工事の監督さんに話をしていた、これ毎年1回水をやっているのよと言ったら笑っていたがね、あれこの際今度植えないようになっているだろうと思うのですが、国の方が国土省に私が電話しているのだが、竹原市があれを撤去してくれというたらすぐやりますということだから、実際竹原市が委託しているでしょ、あの竹の、小さい竹の委託、年に1遍夏に水をやっているでしょ、水やったら10分できれいに枯れるだろうとって私は、やかましく言っていたのですが。あれも委託費で皆市が金出しているのだろうと思うのだ。何の効果もなし、景観でも何の役にも立たない。この際全部あれ竹を10センチか15センチぐらいあるのですか、あのクマザサみたいなのを全部撤去して、国交省が竹原市が撤去してくれといたらすぐやりますということだから、無駄なことは余りせずこの際駅前からずっとフジの方の歩道、やっぱりもうちょっと観光、観光と言っているのだからこういうものはやっぱり見直して、竹の団体さんも私は話しておりますので、やっぱり市民にどういうものを植えて管理する方がいいのか一遍原点に戻って見直してから、御承知のようにもう竹は成長しないのだから、1年したら退化するから、そこら内部でやっぱりほんまにこれから余り要らない予算を使わずに、私が一番いいのはやっぱりそういうものは市民から寄附を募ってもいいと思っているのだが、ホテルなんかもそうだし、いろいろ私はあそこの沿道の方の

意見を聞いておりますのでね、そういう面ではどっちにしてもあれはどこの団体が、シルバーかね、シルバーがたばこの吸い殻なんか取ったりその植木も刈ったりしているがね、もうとにかく成長して四季が変わるような樹木を選定して植える方が私はいいのではないのかと思うのですが、その点について。

委員長（堀越賢二君） 建設部長。

建設部長（有本圭司君） 国道185とか国道432号についてはそれぞれ管理者がいるのですが、竹並木については市の方が管理しているのが現状でございます。1年間の年間管理ということで市内の造園会社の方に委託しているのと、それから先ほど御指摘がありました日常の清掃等は、ごみ拾い等の清掃等はシルバーさんに委託しているというふうな状況がございますので、今後こういった形がいか様々な意見を聞きながら一応検討していきたいというふうに思っています。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） 最後に、とにかく誰が見てもこのような竹を街路樹に植えてああいいですねというような人はいないでしょう。それから、道路へ木を植えるということはやっぱり温暖化の防止にもなる、そういう目的もあるわけよ。だから、総合的に考えて、やっぱり市民があるいは観光客が来てもああ街路樹きれいですねというような第一印象を、鹿児島島に行ったらずっと同じ木を植えて向こうが見えなくなるぐらいまで木を植えているわね、そりゃ見ただけで印象に残る、そういうものをやっぱりこれから考えて、限られた予算だからやっぱり毎年育っていくようなものを選別してやってください。

委員長（堀越賢二君） 答弁は。

委員（宇野武則君） いいです。

委員長（堀越賢二君） 山元委員。

委員（山元経穂君） 169ページの道路維持補修に要する経費、先ほど高重委員からもありましたけど、市道維持補修委託料についてなのですが、予算ということでちょっと全般的な議論になるかと思うのですが、本市、今財政健全化、財政立て直し中ということもありまして、ではどうするかといったら先ほどもちょっと話にありましたけど民間活用を積極的に進めていくというのが1つの手だと思うのです。今までも一般質問でもPFI、PPPに折に触れてお話しさせて、質問させていただきましたが、もうこれ市道の維持というのも今この時期においては復旧・復興で業者の数とかいろいろ委託しにくいのか

もしれないですが、市道の維持をもっと広範囲に広げて、業者に任せて民間委託してやっていけば財政の健全化の貢献にも資すると思うのですが、そのあたりの考えについてお聞かせください。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 道路の維持の手法というか考え方、委員さん言われるようにPFIでありますとかPPPというような新しい手法も出てきております。こちらは他市の状況を見ながら詳細を研究してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

委員長（堀越賢二君） 山元委員。

委員（山元経穂君） 他市の状況と比較することも大事ではあろうかとは思いますが、今先ほども申し上げたように竹原市自体、財政が非常に危機的な状況であると、これ多分やってももちろん委託というのは安全・安心がもちろん担保されることが絶対に必要であると思うのですが、その安全・安心が担保されるのであればどんどん委託して、やはり民間も活用するし、そうしたら民間業者の育成にもなりますし、竹原市の財政的にも楽になっていくということもありますので、是非これは考えて進めてほしいと思います。世の中今かなりのスピードで動いていると思うのです。いろんな自治体がいろんな政策、いい物を取り入れていく、本市もその先駆けとなってくれとまでは言わないですが、積極的に取り組めるものには取り組んでいただきたいと思いますが、その辺もし答弁があれば。

委員長（堀越賢二君） 建設部長。

建設部長（有本圭司君） 山元委員からの御指摘で民間活用、PFIとかPPPということがありましたので、先ほど担当課長の方から答弁ありましたように、まずいろんなそういったやられているところの事例等もちょっと情報収集しながら、竹原市としてどういったことができるかというのは引き続き検討してまいりたいというように考えていますので、御理解のほどよろしく願いいたします。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは、同ページの2番、道路新設改良費について、質疑のある方は挙手願います。

宇野委員。

委員（宇野武則君） この前の……。

委員長（堀越賢二君） 申しわけございません。この中の1番、人事管理は除きます。

委員（宇野武則君） 3番の、県道道路整備事業負担金です。

これ、どこの負担金なのですか、県道の。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） こちら、概要書の39ページをお開きください。

こちらの概要書の、こちらに上段に県道の負担金ということで、南方竹原線が事業費が460万円、竹原吉名線が事業費で1,840万円、その負担金として合わせて市が負担するものが230万円ということで計上させていただいております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） この前も市長にも直接言ったのですが、県道竹原吉名線、県会議員さんもお願ひしておりますが、これは竹原の長い懸案事項なのですが、やっぱり一つの動脈なのですね、竹原市の市をこれからつくっていく。私は当面は結果早くやっときなさいと言っているのですよ、家がない間に。家が建つと3倍も4倍もかかりますのでね。そこらの取組が今後、放置状態になっているのですね、今、竹原吉名線の県道は。いつも言っているように185号線が没になると迂回路が竹原市の場合は全然ありませんからね。早急に対応すべきであろうというふうに思うのですが、その点について今後の見込みはどうか。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） こちら竹原吉名線の御質問でございます。

現在、旧吉名小学校から吉名学園、国道185、このラインについては整備が完了しております。委員言われるように小学校から毛木に向けての県道のルートということで、県の方もこちらルート検討をしております。そしてあらかた検討が終わり、いよいよ事業化に向けての動きが出ているということで、我々としても一日も早い整備を望んでおりますので、県に対して要望していきたいと考えております。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） 要望はいいのだがね、要望はどこもするのだから要望はいいのだが、25年以上になるから、県はここに県土木あったころには県は法線が決まっているのよ。おそらくそれ、西条にもまだあると思うのよ資料が。それで、宇野さん、これ竹原市民が使うのだから県が決めても市がやっぱり積極的に対応しないとこれ前に行きませんよ

というのが当時の土木の所長の意見だった。だから、もう暇があったら行ってね、県庁に行った折には必ず寄ってからお願いします、お願いします、耳にたこができるぐらい言わないと、実際は絶対量がもう半分もないと思うのよ、各地域から要望する予算が。その中からまた国の方の予算査定でまた落とされるわけだから、だから相当粘り強くやってもらわないとこれはいつまでたってもできませんよ。その点について部長。

委員長（堀越賢二君） 建設部長。

建設部長（有本圭司君） 竹原吉名線の御指摘でございますが、るる竹原吉名線については以前からいろんなルート検討あったのですが、来年度に向けて県の方で予算しっかりつけていただきまして、このこちらの事業費にもありますように1,840万円ほど来年度予算もつけていただいていますので、市といたしましても一日も早くこの路線の見通しがつくように粘り強く県あるいは国などにも要望してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

委員（宇野武則君） 期待しておきます。

委員長（堀越賢二君） 竹橋委員。

委員（竹橋和彦君） 169ページの道路整備に要する経費の15番、新設改良工事、具体的な場所を教えてください。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） こちら新設改良の場所ですが、こちら市道宮床線整備事業でございます。

市道宮床線は忠海高等学校東の国道185号から宮床地区に通ずる道路でございますが、こちら平成24年に床浦地区までの市道が完了しております。今回、旧忠海西小学校までの約100メートルの間を整備をしておりますが、平成29年に測量設計、用地買収、平成30年に工事に着手しておりますが、来年平成31年度完成を目指して予算計上をさせていただいております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは、168ページから171ページになります。

橋梁維持費について質疑のある方は。

高重委員。

委員（高重洋介君） それでは、171ページの2番の橋梁維持改修に要する経費の測量と工事の方がありますが、この場所というか内容というかを教えてください。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） まず、測量設計委託料300万円でございますが、こちらにつきましましては橋梁の点検に、10橋点検をすることにしております。この橋梁の点検につきましましては、道路法の施行規則の一部が改正されまして、近接目視を5年に1回行うということになっております。今年度、平成30年度で320橋全ての橋梁が一巡するということで、改めて31年度から点検に入るということで31年度は10橋の点検を予定しております。

また、橋梁の維持補修6,500万円につきましましては、こちら本川にかかっておりますJRの北側の汐入橋と賀茂川にかかります西野町の西谷中央橋、こちら荘野小学校の付近となります。また、橋梁15メートル未満の橋梁につきましても予算の範囲内で補修を行っていききたいということで考えております。

また、この財源としましては国からの交付金55%を活用して実施するものでございます。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 高重委員。

委員（高重洋介君） それでは、お伺いをさせてもらうのですが、その前に今回の災害で成井の成井橋、これはここではなくて災害復旧の予算の方で聞く方がいいですよ。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 橋梁については補正の方でつけていただいて、それについては設計からもう査定も受けまして実施に向けて進んでおります。今回の災害で6橋の橋梁が被災をしております。これについては現在もう設計も終わり、今度実施に向けての設計を今準備しております。順次工事に入っていきたいと考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 高重委員。

委員（高重洋介君） では、聞く場所が違うということですね。補正の方でできているということですね。

建設課長（大田哲也君） はい。

委員（高重洋介君） ではもう一つ、維持補修工事ということでちょっと違うかもしれないのですが、成井橋が今通れません。その向こうの竹原病院のところの橋がありますよね。実は賀茂川の土手が進入禁止の時間がありまして、朝竹中の前を通過して賀茂川の向こう側の土手を通過して、竹原病院の前を通過してあそこの橋に出てくるわけでありまして、あそこが竹原病院も従業員の方がもう100人を超えてかなり多い従業員の方がおられるのですが、朝1車線なのでごくこう国道から入ってくるのと土手から行く方で渋滞をする場合があるのですが、あそこの橋が例えば2車線になるとかそういう、どうなのですかね、そういう予定とかはありますか。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 現在、被災した橋梁、言われるように竹原病院の過ぎたところ、こちら西上条1号橋という名前がついております。また、こちら中学校のところ上成井橋、こちら2つの橋梁が被災をして通行止めとなっておりますが、地域の皆様には大変御迷惑をおかけしております。この復旧に向けて我々としても幅員を広げてという思いもあるのですが、この復旧の大原則として原状復旧、原状の復旧ということで、それを改良して広げる場合にはその広げた費用については負担が必要ということで、復旧後も幅員については現状の幅員であるということで御理解いただければと思います。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 高重委員。

委員（高重洋介君） ここで質問するべきでないとは思いますが、さっきの上成井橋の話なのですが、答弁はいいです。提言だけにしておきます。

通学路となっており、今小学校の児童が朝日橋の方を回って約1キロ、行きも帰りも遠回りをする。30分ぐらいかかるという話です、子どもが歩くので。その辺も含めてこれから夏になって熱中症とかあります。朝は今でいう進入禁止で土手を通過してこられるのですが、帰りの3時から4時という時間はかなり交通量もありますし、今賀茂川の浚渫の工事もされてとても危険な状態であります。おそらく警備員がついてなかったと思います。そういうこともありますので、是非そういった子どもたちの安全を守るために成井橋、早い復旧工事をしていただきたいというふうに思います。これはもう要望なので、はい、お願いいたします。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） ないようですので、次に移ります。

河川費， 172 ページ， 173 ページの河川総務費について， 質疑のある方は挙手願います。

松本委員。

委員（松本 進君） 河川の維持費のところの 15 番， 維持補修費が， 補修工事費がありますけれども， 昨年もちよっと予算でお聞きして， 例えば本川の分で言えば 250 万円ちよっと予算措置が昨年ではあったのですけれども， 特に今回 7 月豪雨を受けていろいろ補正， いろいろ予算が必要ではないかなと思って見たら昨年と同じ， 変わらないのかなという心配があって， 緊急には昨年の教訓からやっぱりその本川にしてもいろんな浚渫とかいろんな応急的な対応が必要で， あとは広げるとかというところとちよっと時間がかかる場所もあるのでしょうかけれども， 当面はそういう応急的な浚渫とかいろんな緊急的な措置が要るのではないのかと思うのですけれども， 予算は昨年と比べてどうなのでしょう。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） この 15 番の維持補修工事， 工事の方でよろしいでしょうか。

委員（松本 進君） はい。

建設課長（大田哲也君） こちら内訳としては本川の補修工事が 254 万円， 市が行う浚渫について 295 万円ということで予算を計上させていただいております。

こちらについて， 昨年との予算ということで， それについては同額になっております。 また， 被災した河川については災害の予算の方で確保するような形で取り組んでいきたいと思っております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 松本委員。

委員（松本 進君） ここの維持補修は前年度と変わらないけれども， 災害のところできき言った浚渫なら浚渫土の分は対応できるというのですか， 相当豪雨で土砂が埋まっているといいますか， そこは対応できるというふうに理解していいのでしょうかね。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 河川の堆積状況を見まして， 市民生活に影響するとかそういう状況を見まして対応させていただきたいと考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 松本委員。

委員（松本 進君） ちょっと確認したいのは、私が言ったのは特に災害が起こってあそこは誰が見ても堆積土が、浚渫が相当大きい、その水路というのか河道が十分確保できていないのではないのかという心配がちょっとするのですけども、だからもう少し7月の豪雨の教訓があるわけですから、状況を見てというのは、たまっているのではないのかというまずはそこらちょっと気になるところなのですよ。まずは十分確保ができて、まだその見た感じは必要ないのかと思うのだけど、僕ら素人考えでは相当あるから……。

委員長（堀越賢二君） 松本委員、災害の方は災害の方でということなので。

委員（松本 進君） 災害の方、わかりました。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） ないようですので、次に移ります。

港湾費、174、175の港湾管理費について、質疑のある方は挙手願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） 同ページ、港湾建設費について、質疑のある方は挙手願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） ないようですので、都市計画費に移ります。

176ページから179ページにわたります都市計画総務費、こちらの人事管理に要する経費は除きます。質疑のある方。

今田委員。

委員（今田佳男君） 179ページの景観計画策定に要する経費、これは1年繰り延べになったということだという御説明だったと思うのですけれども、去年も上がっていて今年、これ去年の財源で見ると国から約半分あったと、今年はどうも見るとそれがないというふうな形の財源になっているのだと思うのですけれども、それで私が言っていることが正しかったら、何でこういうふうになるのかというのがわかれば教えていただきたらと思うのですが。

委員長（堀越賢二君） 都市整備課長。

都市整備課長（西吉八起君） 景観計画策定の費用の国費についてなのですけれど、昨年度今おっしゃられるとおり2分の1ついております。これが昨年度都市再生整備事業の経費として振りかえておりますので、昨年度もらった中にもう含まれている状況なのでこちらでは出てこないという状況になっています。補助率等も変わっていません。2分の1

ありますので。

以上です。

委員長（堀越賢二君） 今田委員。

委員（今田佳男君） わかりました。

財源が厳しい時にこういうことをやるということ、あとこういう景観計画策定と、こういう計画の策定というのは時々出てくるのですけれども、景観を委託で出して計画をつくっていただくと、それから前にも言ったことあるのですが、計画から今度は実行段階に入っていく時に計画策定に関わられた方がどれだけその実行段階に関わるのか、だから計画だけつくってあとはもうやってちょうだいよということでやられるとどうなのかなという思いがいろんなところであるので、その辺はどういうふうにお考えでしょうか。

委員長（堀越賢二君） 都市整備課長。

都市整備課長（西吉八起君） 今回の景観計画の中では、まず竹原市の将来的な景観と地区的な景観の考え方、住民のイメージとか要望等もあります。そちらの方をまずワークショップとかアンケートでつくりまして、その後協議会をつくらせていただきまして、そちらの協議会の中でその意見を集約したもので景観計画の策定、問題のその前に景観行政団体という団体に竹原市がなりまして、その後計画を策定して条例化、規制に関しては条例化を目指しております。この条例化になってもう皆さんの意見を大体受けたものの条例で規制をかけていって、竹原の自然とかその景観を守っていけるような方向でつくっていきたいと考えております。

以上です。

委員長（堀越賢二君） 今田委員。

委員（今田佳男君） 今条例という話、当然議案として上がってくるということになりますよね、いろんなことが。ということで、議会の方にもそれは説明があつてという形よろしいのでしょうか。

委員長（堀越賢二君） 都市整備課長。

都市整備課長（西吉八起君） 景観計画の策定の方が、計画策定が2カ年、31年度、32年度で策定する今計画にしておりまして、条例化はその次の1年に策定する予定に考えております。その中で計画案ができた段階で委員会報告等、その後条例化ではもちろん議会にかけて制定するというつもりで進めたいと思っております。

以上です。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありますか。

松本委員。

委員（松本 進君） 耐震改修と住宅の2項目質問したいのですが、まず最初住宅改修の件から、179ページの住宅改修の助成事業というのがあって昨年より20万円ほど減額という予算措置になっています。それで、ここの以前から私がるる申し上げているのは、こういった補助金に対する契約額といいますか、これは繰り返しいろいろ指摘をさせてもらっていますけれども、調べますと2014年、平成26年1月の創設当初かもわかりませんが、その当時は補助金が114万円使われてそれに対する契約額が3,700万円弱ということで、要するに32倍の経済波及効果という言い方を私はしているのですけれども、そういったものがありました。ここで聞きたいのは、去年ぐらいから制限がされてこれだけ減っているというのがあるのかもしれませんが、端的に聞けばこれだけすばらしいこういう住宅助成の事業にかわる投資に対する契約額、こういったすばらしい経済効果があるなど私は考えていろいろ提案しているのですが、これにかわるようなすばらしいあれはあるのでしょうか。ちょっと、あれば聞かせていただきたい。

委員長（堀越賢二君） 都市整備課長。

都市整備課長（西吉八起君） 安心住宅改修助成事業以外にこれにかわる助成事業があるかという質問と、補助額が減っているに対する契約金額等の倍率ですかね、という質問でよろしいですか。

まず、資料の方が今なかなか出てこないのですが、29年度の資料がちょっとたちまち出ているのでこちらで説明させていただきますと、29年度は7件の申請で交付決定が5件になっております。この中で契約額の方が平均で68万4,000円になっておりまして補助額の3.4倍、この契約率になっております。それ以外の補助対象費用額が大体31.4%が補助金という形になっております。そちらの今契約額の方が経済効果の方になっていると考えております。それと来年度の予算につきましては、今30年度が今回6件の相談申請がありまして4件の採択という形となっております。この時に契約額の割合としましては1件当たりが40万6,000円が契約額の平均になります。合計でいきますと約160万円が合計額になっておりまして、補助費の方に対しては2.3倍というのが工事の契約額になっておりますので、こちらのものが経済効果としてのお金の面に出た金額になると思います。今年度におきましては、災害以降の申請というのがなかなか少ない状況で4件になっている状況で少なくなっております。来年度はこちらの現状を加味し

ながら予算がついているというような形の状況になっております。

それと安心助成事業以外にそういう、どういうのですか、それ以上の事業があるかということに対しましては、一応都市整備課の方でいきますと耐震改修の事業として住宅改修関係の費用に充てられるメニューとか、今市外から来られる方に対する空き家に住まれる方に対する改修補助事業等、こういうものをいろいろ複合的に使えるようにしまして効果を上げていきたいと考えております。

以上です。

委員長（堀越賢二君） 松本委員。

委員（松本 進君） 是非ちょっと部長に伺いますけど、私は伺ったのは過去の創設当初で福祉施策の住宅改修といいですか、これは想定当初だったのですが、その時は補助金の出した分に対する契約額が3.2倍、これはやっぱり相当すばらしい経済効果という私はそういう言い方をしているのです。今は2倍、3倍とかというのがありましたけれども、それは現実問題としては利用しにくいというのか、住民税非課税とかそういう対象を狭めたら要するに使いにくかったら誰も使えない、その2倍、3倍しか効果がないということにはなるのですね。

ですからもう一回、私が質問したのは今までの経験を見ると、その2014年1月のデータを言いましたけれどもその当初は3.2倍の経済効果があったと、今回はこの予算が減っているというのでこの住宅助成にかわるような、当初この3.2倍になったような経済効果を超えるようなところはあるのかどうかを伺ったのです。

委員長（堀越賢二君） 建設部長。

建設部長（有本圭司君） 住宅リフォームに関する経済効果等の御質問があったわけですが、この住宅リフォーム制度というのは当初は県の補助金等も活用しまして実はスタートしたということがございました。初年度はなかなか利用が少なかったということで、議会の方から御指摘いただいて柔軟な対応をしたらどうかということで、いろんな拡充策とか見直しをした結果数年前は30件ほど実は申し込みがあったということで、スタート当時から3年から5年社会実験的にやってみようではないかということで、この制度を立ち上げて取り組んだわけですが、ある程度この3年から4年やる中で一定には皆さん利用していただいたのかなというふうに認識いたしております。他市の状況等も調査いたしますと、他市においてもある程度3年とか5年ぐらいで一応もうこの事業はやめられているというような状況もございますので、今はこういった住宅リフォームについ

ては単市で助成しているというようなこともあって、今後は非課税世帯、弱者に対してより住環境活用していただくということで、昨年からは非課税世帯に対して助成をしているということです、その辺御理解をいただきたいというふうに思っています。

以上です。

委員長（堀越賢二君） 松本委員。

委員（松本 進君） ちょっと私の質問に答えてくれないから別の機会にしたいと思います。

それでは次に移りますけども……。

委員長（堀越賢二君） 答弁はあったとは思いますが。

委員（松本 進君） いやいや、まあそれはいいです。

次は、耐震改修の分でちょっと伺いたいと思うのですが、当初の昨年度の予算から比べたらちょっと大幅に減っているなというちょっとあって、まだこれから持ち家の耐震改修とかいろんな面は必要性が出てくる、いろんな事情があって使いにくいというのがあればそこを改善してやるということで、いろいろ今回南海トラフとかいろんな災害が想定されるということも出る出されました。ですから、一遍にぱっと直すなんていうのは不可能ですから、それちょっと粘り強い計画的な対策が必要なのでしょうけども、ここのがたっと減っているという大幅な減額になっているというのは耐震改修の促進が途中でストップすると思うのですが、そこらの減額した理由と伺いますか、何か私が知らないような別の対策をとられるのかどうかを含めて伺っておきたい。

委員長（堀越賢二君） 都市整備課長。

都市整備課長（西吉八起君） 昨年度の予算額に比べて減額した理由というところなのですが、こちらでも今年度の実績が今ない状況になっております。災害等を含んでそういう実情ではないのか、うちの方ももうちょっと啓発等がもっとできなかった部分もありますけれども、これに伴った予算の減ということで、数が今ないので減ったと、それと今後の費用の優先順位を考えて減っている状況になっています。

以上です。

委員長（堀越賢二君） 松本委員。

委員（松本 進君） 実績がないというのはいろいろ課題があるからだと私は思うのです。ですから、確かに耐震診断をして、今度はその補助もらうと耐震改修する、そうしたら莫大なお金かかりますよね。ですから、その対応がやっぱりいろいろ課題があるか、

使いたくてもなかなか一遍にこう何百万円かかったら直しにくいとかというのでは課題があると思うのですが、そこは一定の整理があつて今まで私も個別の提案したことありますけど、確かに家全体の診断をして直そうと思つたら何百万円かかるというのが、そこを直したいけどお金が出せないというのはやっぱり課題ではないのかなと私は受けとめていっているんですね。

そこは市としてはそういう実績がないというさらっと流されるけども、その課題の整理と今後の対策はどうされるのかというのをちょっとあれば聞いておきたい。

委員長（堀越賢二君） 都市整備課長。

都市整備課長（西吉八起君） 実績がない中での課題ということなのですが、昨年度予算をいただく時に、まず課題として改修していただくまでに診断を受けないと改修につながらないという今流れになっております。この中で、診断費用の助成額が1件当たり3万円という形でその費用が少ない状況ですとなかなか診断を受けていただけないということで、今年度から最大6万円の助成に変えさせていただいて取り組んできたところであるのですがこういう状況になっております。この状況でまだもう少し取り組ませていただいて、その結果を見てちょっと検討させていただきたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

委員長（堀越賢二君） 山元委員。

委員（山元経穂君） 179ページ、7番の新規事業ですか、大規模盛土造成宅地調査に要する経費ということで、今年は地質の調査委託料、土地、地質の調査委託料ということで、先ほど部長から新規概要の説明の時にもありました阪神大震災、新潟中越地震、東日本大震災で、東日本の方は私ちょっと余り事例は知らない、新潟の中越地震の方は山間部ということで山崩れ、当然これ起こってしまうであろうと、一番衝撃だったのが後の検証で阪神大震災だったと思うのですが、神戸市結構山際に囲まれていて、そのただ山際に囲まれていてそこを宅地開発したところが、崩れないであろうという一定の予想があったみたいですが、それが阪神大震災の時に大きく崩れてしまった。後から調べてみるとその土地の地質ですよ、もともとここである地山というかかたいところはかたい、やわらかいところはやわらかいということで盛り土が必要以上にされていなかったということで、今回はこういうことでこの事業を進められるのは防災対策にとってとてもいい事業であるので是非やっていただきたいと思いますが、そこで関連して地質の部分です。

先ほど宇野委員から竹林の23%が表層滑り、多分表層崩壊のことではないかと思うの

ですが、実際は今深層崩壊とか表層崩壊とか地震に限らず豪雨の時でも大きな問題になっていると思うのですが、これ私の記憶違いでなければ何年か前に、多分国の方で調べてくれということになっていると思うのですが、竹原市としてこういう軟弱地盤とか軟弱地質の状況把握ってどの辺まで進んでいますか。

委員長（堀越賢二君） 都市整備課長。

都市整備課長（西吉八起君） 竹原市において、軟弱地盤、地盤の状況の把握というのは今のところできていない状況になります。今回、今委員の方からおっしゃられました今の住宅団地とかが地震の時に滑る現象、これ滑動崩落とか今あの水を含んで崩落するパターンといろいろあるのですが、そういうものの現状を把握しようという調査業務になります。これの目的は、そこに住んでおられる方にどういう状況のところですよというのをお知らせして、地域の住民と連携しながら安心・安全なまちづくりにつなげるために、まずどこにあるのかという形の調査をやって、マップ化して広報等で公表していきたいというふうに考えております。この中に今2タイプありまして、団地なんかがよくやる大きな団地で切り土と盛り土と両方でできている団地、こういうところは谷埋め型として3,000平米以上のものが対象になる条件になっております。こちらもそういう対象があるかないかを調査していきたいと、まず調査ということ、それと腹付け型、5メートル以上の擁壁等を盛り土でつくってあるような場所の調査という形でまず把握したいという形の事業になっております。よろしく申し上げます。

委員長（堀越賢二君） 山元委員。

委員（山元経穂君） 先ほども申し上げましたが、防災対策になる話であるので是非これは徹底的に調査して進めていただきたいと思います。それとあわせて、ここでの予算ではないし、予算にも限りはありますが、やっぱり本市の軟弱地盤とか山崩れが起こりそう、深層崩壊、表層崩壊が起こりそうなどいうところは一定多分国の方で調査してくれというような話が何年か前にあったのではないのかと思うのですが、これ勘違いだったらごめんなさい、もしそういうところもあわせて危険地域の把握ということをお願いしておきたいと思います。答弁はよろしいです。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは、同ページの公園管理費、こちらの1番、バンブー体育施設管理に要する経費は除きます。

高重委員。

委員（高重洋介君） 179ページです。

的場海水浴場に要する経費378万7,000円、これは多分海水浴シーズンに警備員の費用かなとは思いますが、後からも出てくるのですけど、ここ駐車場、正直何年か前も提言させてもらったのですけど、券売機をつけて駐車場整備をすれば竹原市にもお金も入ってきますし、それでまた維持管理ができると、同じようなことが中四国フェリーのところも思っているのです。中四国フェリーのところも言えるのですけど、去年は豪雨の影響で海水浴ができないという状況でした。毎年370万円という予算を使うのであれば、整備をして券売機をつけて駐車場にすれば、公園も一緒にきれいにしていればいいと思うのですが、その辺についてお伺いをします。

委員長（堀越賢二君） 都市整備課長。

都市整備課長（西吉八起君） 何回か御提言をいただいている的場公園の駐車場の有料化の御質問をいただきました。

的場公園については、現在のところは公園なので誰でもが使えるということを目的に駐車場も開放している状況があります。今言われるように、公園とかそのほかの今後の少しでも収入を得て整備等に回す方向の検討というのはしていけないといけないと考えてはおります。今後の検討課題としてちょっとさせていただければと思います。

以上です。

委員長（堀越賢二君） 高重委員。

委員（高重洋介君） 狭いところでもありますし、正直舗装もできていない部分もありますし、安全性からいっても少し危険な部分があるのかなと。こういう言い方したらいけないかもしれないのですけど、夏場海水浴、ほとんどが市外の方ですね、来られているという状況です。その中で竹原市が維持管理をしていくという中であれば、私は多少の駐車料金をいただいて整備をして、たくさんの方に来ていただけるような公園にすればいいのかなというふうに思いますので、是非今後検討していただきたいと思います。

委員長（堀越賢二君） 答弁は。

委員（高重洋介君） 時間がないのでいいです。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） 的場の第2海水浴場、ボラ網の方、あれできて20年近くなるか、検討検討でよく返事をもらっているのですが、あれは松本さんですかね、今もうこちらに

はおられないのではないのかと思うのですが、その後何か取組をやっておられるのですか。

委員長（堀越賢二君） 都市整備課長。

都市整備課長（西吉八起君） 的場の第2海水浴場の地権者さんとの取組ということではあるのですが、私が都市整備課長になってから一度お話をしたことはあります。今言われたような取組というのはやはり経費の問題、財政的な問題もあるので、お話だけはしましたけどそれ以降はちょっと取り組んでないという現状になっております。

以上です。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） あれは県が、少ない銭ではない、あれ整備するのに。やっぱり県に対しても、残りは竹原市の仕事だけだからやっぱり前向きにやってから。私はもう夏には何遍も行くんよ、舟でね。だから、使用状況もよくわかるのだが、もともとの海水浴場の方も、あそこの今設備がほとんど、当時いろいろもめて、設備そのものも海水浴場の体をなしていないのよ。だから、それまではずっとやっていたのだが、ボートとかそれから屋根をつけて台をつくって賃貸していたころには多かったのだが。今おそらく3分の1ぐらいだろうと思う。せっかくの1カ月か1カ月半の間の施設ですから、特に西条の方は一番竹原近いから、呉の方は水質も余りよくないからこっちの方選択されるのだろうと思うのですが、やっぱりせっかくの施設ですから、もうちょっと外部から来た人の、町並み保存地区だけではなしに、あそこはもう10時ごろに来たら3時ごろまでおられますから、そこらを総合的に判断して、やっぱりちょっとでも時間を長くしてもらおうと飲み物にしても何にしても皆消費もあるわけだからね、その点について本腰を入れて、あそこへ1週間ぐらい通ってみなさい。絶対にもう同意してくれる。あのササがいっぱい生えているところだからね。もうちょっと自分のこととして真剣に取り組みなさい、部長以下。

委員長（堀越賢二君） 建設部長。

建設部長（有本圭司君） 西側の海水浴場の公園側の整備でございますが、私も当時担当課長ということで、地権者の方と数回ほどお会いして交渉したのですが合意に至らなかったというのが現状でございます。御指摘があった件については引き続き粘り強く交渉の方進めてまいりたいというふうに考えておりますので、御理解のほどよろしく願いたします。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） あそこのコーポ的場の理事長さんも相当前向きに協力してきたのだということと言われる。あそこは駐車場も相当台数確保できますから、そういうことを総合的に判断してとにかく取り組んでみなさい。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは、街路事業費に移ります。

これは178ページ、一番下段から179ページの上段となります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） では、180ページ、181ページの駐輪場管理費。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは、次の土地区画整理事業費、こちらは180ページの中段から183ページの上段までとなり、2番の新開土地区画整理事業に要する経費、こちらのみとなります。

松本委員。

委員（松本 進君） 新開土地区画整理事業の経費が1億2,000万円余り計上されております。ここでちょっと聞きたいのは、この新年度に計上された予算に関わって対象地権者は何件ぐらいおられて、同意といいますか納得といいますか、そういった取組状況についてちょっと見通しを含めてお尋ねしておきたいと。

委員長（堀越賢二君） 都市整備課長。

都市整備課長（西吉八起君） 対象地権者の数と合意状況という御質問です。

ちょっと今、お待ちください。

委員長（堀越賢二君） 資料すぐ準備できますか。

建設部長。

建設部長（有本圭司君） まず、区画整備の地権者の数でございますが、全体で349件ございまして、こちら法人と個人も含めた数でございます。現在合意形成を得ているのが全体で296件、進捗率で言いますと84%でございます。残りがあと53件ほどございまして、この残りについて事業期間の平成34年度を目標に、残りをやる交渉を進めていくという状況でございます。特に皆さん御存じのように、今もともとセブーンイレブンがあったところから竹原中学校に入る朝日橋のところまで、交差点部分は何とか合意形成を得て改良できたのですが、そちらのあと西側部分については今現在は交渉中ということで

すので、引き続きこちら辺を中心に粘り強く交渉を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 松本委員。

委員（松本 進君） 地権者合意にはいろいろ至らないということでしょうけど、最大のネックといたしますか、そこらのこういうやっぱり課題があってこういう市が対応、できる対応があるかわかりませんができる対応をして、そのこういう合意を得られるのではないかとその対策と見通しなんかはどうなのでしょう。

委員長（堀越賢二君） 建設部長。

建設部長（有本圭司君） 今の交渉の状況でございますが、やはりもともと土地があって、新しい換地設計の土地については道路を挟んで分断されるとかというようなことで合意に至っていないということとか、あるいは一応補償との問題でこちらが提示している補償額に対してなかなか合意が得られていないというふうな状況がございますので、そういったことも含めて今後も粘り強く交渉してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは、182ページ、183ページの公共下水道事業費、こちらについて質疑のある方はお願いします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） 同ページの下水路費。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは、伝統的文化都市環境保存地区整備費、184ページ、185ページの景観道路・修景広場維持管理に要する経費、1番、こちらに質疑のある方挙手願います。1番だけとなります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは、住宅費に移ります。

ページ少し飛びます。188ページ、住宅管理費は188ページから191ページまでとなります。この中の1番、人事管理に要する経費は除きます。

質疑のある方は挙手願います。

宇野委員。

委員（宇野武則君） 済みません、どうも。

この前もちょっと言ったのだが、今後どのような対策をとって、例えば入居率とか耐久年数がもうないとかというような住宅がかなりあると思うのですが、そういう今後の住宅対策について伺っておきます。

委員長（堀越賢二君） 都市整備課長。

都市整備課長（西吉八起君） 御指摘のとおり、市営住宅が老朽化して、耐震性のない古い住宅というのがたくさん今の現状残っております。こちらの方、長寿命化計画の中で統廃合というのを今計画として進めて、廃止等して移転していただいて安全な住宅に住んでいただくということで、取組をさらに強化しながら進めていくということで考えております。

それに伴ってあいた土地も、将来的には有効活用できるような方向に早くできるような取組を進めていきながら、今後は住宅の需要、入居者のニーズ等考えながら安心・安全な住宅を確保し提供していけることを目指して進めていきたいと考えております。よろしくをお願いします。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） 修繕費でも1,500万円余りあるわけですが、全体では5,900万円あって、おそらくある程度整理していくとこの予算も半減ぐらいするのではないのかというように想定されますが、早急にやっぱりそれ計画書を出してこういうふうにするのですということで、我々も協力しますから、やっぱり間違いなしに竹原市の将来のためですよ。今のところへ入居しろといっても誰も入らないでしょ、ほとんど。おそらく3分の2ぐらいそういう対象の住宅あるのではないですか。だから、そこらこの前も質問した時に言ったように、やっぱりよそは皆40年以上たった市営住宅を後生大事に管理しているところ余らないと思うのですが、管理責任も伴うから。それから、一番大事なのはやっぱり入居率です、年間通して。どこまでパーセンテージを設定するかそれは議論のあるところだが、40%にするか50%にするかはそれは全体の状況の把握してから決めることだろうと思うのだが。やっぱり50%切って耐久年数がかなりなると整理していくと私はこういう予算が間違いなしに減ってくると、その減ったものをリフォームしたりそういう住宅政策をとらないと、ちょっと入りたいと思っても希望ないと思います。その点について。

委員長（堀越賢二君） 建設部長。

建設部長（有本圭司君） 市営住宅について御指摘でございますが、一応33団地ある中で、かなり老朽化した古い住宅も半分以上ございますので、移転事業というのも以前から進めていますので、耐震性があって活用できる住宅については移転事業進めてそちらの方に移転していただくということ、それから統廃合等の御指摘についても今後引き続き検討して、様々な検討をしてみたいと、ニーズによってあるいはコスト面も含めて社会情勢も踏まえながら様々な検討はしていきたいというふうに考えていますので、御理解のほどお願いいたします。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） 幼稚園なんか、ぱっぱっかなりスピード感を持って統合しているのだが、市営住宅がもうあいとるのによろ統合しないというのはよくわからない。とにかく今後しっかり努力して、市長に進言して、やっぱり町一体となって取り組んでいかないと、そういう面では我々も地元行って説得しろと言えはいろんな方法で協力しますので、早急にやってください。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは、用悪水路費に移ります。

192ページ、193ページ、樋門維持管理費、こちらについて質疑のある方、挙手願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） では続きまして、急傾斜地崩壊対策費、194ページ、195ページ。

松本委員。

委員（松本 進君） 急傾斜地の195ページに県営と1と2の負担金と維持補修費がありますけれども、例えば去年7月豪雨があつて以降に、そういった擁壁のそういう傾斜地の点検といいますか、剥離したところがないとか、水抜きのところ木が生えてその危険性がないとか、排水路の関係ですよね。そういったものが総点検されているのかどうかをまず1点聞きたい。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 急傾斜地の点検についての御質問でございますが、こちらの定

期的というか梅雨前6月前、4月か5月に県と合同で急傾斜地の点検を行っております。そこで異常が見られた場合には早急に補修等手だてをしている状況でございます。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 松本委員。

委員（松本 進君） もう一回その同じ繰り返し、点検箇所が何カ所かあってそれ全て確かに点検されているのかという確認なのですが、私が気になるのは、例えば7月豪雨ではそういう点検は今までしているのでしょうか、それは異常な豪雨というその理解だけでは済まないようなところがあるのではないのかという面では、さっき言った剥離しているというのかそういったところ、ちょこちょこ私も聞くわけです。そういったところなんかはもう一回、ちょっと手間が要るのかもわかりませんが総点検したりとか、あとは目視でも水抜きのところの木が大きく生えて、ちょっと素人考えですけどもあそこが放っておいたら壊れてその水抜きの機能が果たさないのではないのかとか大変心配するということがあって、まだまだ総点検されて対策がとられているのかなという、そこはどのようなのでしょうか。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 実際には御自宅の裏ということで全て我々が点検できているとは言えません。そうした場合、地元というかその関係者から御要望いただいて、それについては適切に対応している状況でございます。委員さん言われるように、日ごろの点検をすることによって構造物を長くもたせるであるとか、その草が生えていることによって長年によってはクラック等の原因になりますので、その辺は適切に対応してまいりたいと考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 松本委員。

委員（松本 進君） ちょっと部長に聞きたいのは、今課長が答弁あったのはいろいろ全ては点検できていないという答弁でした。ですから、特に7月豪雨のあれだけやっぱり相当な被害が出て、急傾斜のところの今やっているところもそういう崩壊した箇所があります。ですから是非もう一回、総点検といいますかできていないところは確実にやっていくということについてどうでしょうか。

委員長（堀越賢二君） 建設部長。

建設部長（有本圭司君） 御指摘があった件につきましては、県と連携をしてできること

は可能な限り取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上です。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） ないようですので、次に交通安全対策事業費、196ページ、197ページの2、交通安全施設整備に要する経費、2番のみとします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） 議事の途中ではありますが、今後の議事進行につきまして相談がありますので、暫時休憩します。

午前11時50分 休憩

午前11時51分 再開

委員長（堀越賢二君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議事の都合により、13時より会議を再開するものとし、暫時休憩します。

午前11時51分 休憩

午後 0時56分 再開

委員長（堀越賢二君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

一般会計の途中でありました。

ページ242、243、公共土木施設災害復旧費、こちらについて質疑のある方、挙手願います。

下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 今年予算の、災害復旧が一番だろうと思っています。その中で、公共性の川とか道路とか橋梁とか公園について、今のたまたま瓦版を出していただいたものを見させていただいたら164件ということですが、金額が23億円余りということになっています。その中で、今市の取組状況としては入札等も随時やっつけらっしゃると思いますが、どういう状況かを教えていただけませんか。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 公共土木施設災害等補助金が対象になる箇所が164カ所ということで、現在の状況ということでございます。

こちらはこの164のうち、被災直後から道路の崩土の撤去、河川の埋伏浚渫等40件につきましては、査定を受ける前に工事には着工をしております。現在40カ所について

は完了しております。査定についてもほぼ100%で採択をいただいているところでございます。

また、その後の工事発注につきましては現在10件程度の今発注を準備しております。今後も引き続き発注に努めていきたいと考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） ありがとうございます。少しずつでも進んでいるという状況ですが、私たち近くで災害をずっと毎日のように見ているわけですが、なかなか進んでないような状況も見受けられます。特に道路については、やはり災害直後から通学路等もございまして、そこらも含めて今後至急の対応をしていただくようによろしくお願ひしたいと思ひます。大きな災害でございまして、今から市民の方もいろいろとこれからどうなるのかということがございまして、そこら辺も丁寧な説明をしていただくようによろしくお願ひいたします。その辺についていかがでしょうか。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） こちら災害、昨年の7月の豪雨災害、我々経験したことのないような災害を受けました。その中で市民生活にも大きな影響を与えたということで、その被災当時市が管理しております市道につきましても三十数カ所の通行止めがございました。昨日現在で8カ所の通行止めということで、通行止めの解除に努めてまいりました。今後は本復旧に向けて、一日でも早い本復旧に努めてまいりたいと思ひますので、御理解のほどよろしくお願ひをいたします。

委員長（堀越賢二君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 最後でございまして、今8カ所まだ通行止めがあるということと今から本工事ということなので、一日も早い復旧をしていただきますようによろしくお願ひしたいとともに、市民の方にも、重ねて言ひますがその辺の対応について説明よろしくお願ひしたいと思ひます。その辺よろしくお願ひします。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 今後本復旧に向けては、また工事の関係で地域の方には御迷惑をおかけするとは思ひますが、御理解、御協力のほど、我々としても安全で工事を進めていきたいと思ひておりますので、御協力のほどよろしくお願ひをいたします。

委員長（堀越賢二君） 高重委員。

委員（高重洋介君） それでは、公共土木施設です、災害の方です、質疑をさせていただきます。

ホームページ等々で入札の状況を見ますと不調が多い。これ3年間でやっていかないと補助金も切れてしまうという中で、スピード感が要るのではないかな。今年に入って大分いろんな河川とか道路、賀茂川の浚渫とか目に見えるように進んできたなというふうに見えております。しかしながら、入札の不調も多い。他市町と比べた時に、単価がちょっと竹原市は安いというような話も聞いております。例えばダンプ1台が、呉市の方では6万円が竹原市では3万円、ちょっとごめんなさい、これ聞いた話なのであれなのですが、というような状況で、そちらの方へどうしても業者の方が行かれているのではないのかというような話も聞いておりますし、その他もろもろ建設費の方も少し他市町に比べて単価が安いというふうな話も聞いておりますが、その辺について一言お願いします。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 災害の設計の単価でございますが、こちらは広島県共通でございます。これは今後、我々としても会計検査等も入ります。その時にやはり適正な単価で執行はしておりますので、御理解のほどよろしく申し上げます。

委員長（堀越賢二君） 高重委員。

委員（高重洋介君） 入札自体ではなしに、業者間の民民の話であったのだなというふうに認識をしております。どっちにしても、この3年間で工事を全てやり終えないといけないということなので、是非スピード感を持ってやっていただきたい。それと、河川はこれから梅雨時期に入ってまいりますので、特にいつまた災害が起こるかもしれませんので、市民の安心・安全、不安を早く取り除くためにもスピード感を持ってお願いをいたします。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） はい、我々の方としても一日も早い復旧ということで心がけております。また、かなりの量の被災を受けております。今後、県の事業また国の事業が出てきますと業者の不足、資材の不足等も出てきますので、その辺は県の方とも連携しながらスムーズな復旧ができるように心がけていきたいと思っております。

以上です。

委員長（堀越賢二君） 山元委員。

委員（山元経穂君） この復旧工事でなかなか急いでやらなければいけないところとか緊

急箇所とか、順番があるとは思いますが、市民がよく使うところとか、先般も一般質問で、この地区のことを人が少ないから後回しになっているのではないかというような話もあったとは思いますが、これもし私の不勉強でちょっと間違っていたら指摘してほしいのですが、大井のところで橋が1つ崩れていると思うのですが、そうしてこうU字路という迂回路になっていますが、これはもう補正で対応しているのかどうか、ちょっとお願いしたいと思います。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 宿根ですかね、あの宿根のかかっている橋で今回落橋して、現在は迂回路をつけさせていただいています。これについては災害の査定も受けまして、橋梁として復旧する予定にしております。予算については、現在復旧事業費としては1.2億円ついております。そこについては優先順位がございますので、そちらの方で対応していきたいと思っております。

委員長（堀越賢二君） 山元委員。

委員（山元経穂君） ついでで余り個別のことに入るのもどうかとは思いますが、先ほど午前中に、同じように橋が崩落している西上条橋の話は高重委員さんの方から話があったので言及はしませんが、この宿根のところの橋、そしてまたそのもうちょっと上側、上側になるのですが、通称でめおと川と呼ばれているところの流路がやっぱり土砂崩れ等かなり狭くなっていて、地域の人が不安に思っているというところもあるのですが、あわせてやはりそれも工事していかないと、結局橋だけきれいになっても同じことになると思うのですが、この辺、あわせてその他の事業でもここだけ直せばいいと、こっちも直しておかないと結果的にはやはり連動して、また災害が起こった時にダメージを受けやすくなるのではないかというような話もありますが、その辺ちょっと教えていただけませんか。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） このたび災害では河川が大きく被災を受けて、県の河川は、例えば田万里川であるとか賀茂川であるとか、それに付随する市の管理する支川とかということでその辺は調整をとりながら、そこだけを直すと委員さん言われるようにまた被災を受けるといような箇所については、県と連携しながら復旧に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 山元委員。

委員（山元経穂君） 是非，そういうところも配慮しながら竹原市の復旧・復興事業，朝もちよっと話がありましたが，まずは原状復旧ということではあります，次に災害に見舞われた時のために一定の強靱化を目指して対応していただきたいと思います。

それともう一つ，7月の豪雨の災害がありまして，私たち議会も連絡会議をして議会事務局を通してそれぞれの担当課にいろんな要望が出されたと思います。また，その連絡協議会の指定は解除された後にも，議員それぞれとか自治会長とかいろんな要望があったと思いますが，これの確かに建設部の方々も忙しかってそこまで手が回らないということではあるのかもしれない，その事情も重々承知しておりますが，一定にそれがどういう結果になったか，結局陳情したとか要望があったところがどの辺までできたとか，これはもう完全に直りましたとか，そういう結果報告がないとまでは言わないですけど，聞きに行かないとなかなか教えていただけない。これ，今すぐには言わないですけど，一定に時間がたてばそういうものを議員に教えてほしいなとは思っているのですが，その辺についてお願いします。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） このたびの災害では各自治会また議員さん，いろいろな方からの情報を得る中で災害箇所を確認しております。これについてはうちの部長，参事も各自治会を回られて，その状況また今後の取組ということで説明には行かせていただいているのですが，今後復旧が進むにつれては後の復旧状況ということについて，先日出させていただいた瓦版，これは1号だけでなく今後そういう形で皆さんにわかる形で公表していきたいと考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 山元委員。

委員（山元経穂君） 全体工事は，多分民生の委員会等で工事状況とか配っていただけたりとか，そこで情報発信されているのだと思うのですが，やっぱり自分が頼んだというかそれぞれやっぱり気になるころではあると思うのです。ですから，そういう議会事務局からの要望があったとって別に誰からとまでは言わないでいいですけど，そういうことが一つわかるような資料を提供していただければと思いたいので，よろしく願いいたします。答弁はいいです。

委員長（堀越賢二君） 川本委員。

委員（川本 円君） 同じく243ページの公共土木施設災害復旧に要する経費のところ

でお聞きします。

冒頭、部長の方からこの復旧に当たっては優先順位を決めて計画的に実施していくという趣旨のお話がありました。そこでお伺いするのは、その今出ている164件の順位、優先的な順位はもう決定しているものなののでしょうか。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） こちらに優先順位という御質問でございますが、今回竹原市が出させていただいた復旧・復興プラン、これの取組の方針ということで、まずは通学路に指定してあるとか、そういう条件を交通量の多いところというような条件はつけて優先順位をつけていっております。ただ、県との兼ね合いとかそういうことでその優先順位が変わってくることもございます。優先順位はつけております。

以上です。

委員長（堀越賢二君） 川本委員。

委員（川本 円君） 計画どおりにいけばということでしょうけど、いろんな先ほど言ったように県の事情もありますから、必ずしもその順位どおりにはいかない場合もあるであろうということだと思います。それはよくわかります。

それに対して、では実際市民の皆様には優先順位をどういうふうに伝えていくのか、どういうふうにお考えがあればちょっとお願いします。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 優先順位を市民の方に伝えていくかということでございますが、確定してあるものであればそれを伝えていけるのですがそういう流動的なものがございまして、やるといったものができないという時になると不信感も招きますので、それは確実に業者も決まりましてそこをやるというような段階では市民の方にはお示しできるということで、着手した時点で工事ということで、あらかじめ優先順位を出したことによってまた順番が変わった時にはまた不信感になりますので、その辺は確実な情報でお示ししたいと思っております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 川本委員。

委員（川本 円君） 言われることは確かにわかります。確実に順番が決まって実施してからでない、余り下手なことを言ってもし状況が変わって順番が変わったら不信感を招くからということで、それは重々わかっているのですが、以前にもちょっと指摘させ

てもらったのですが、住んでいる地域の皆様にとっては自分の身の回りの橋が、さっきも橋の話も出ましたけど道路とか、いつごろ直るのだろうというのがいつも気になっているし、当然僕らに対しても聞かれることがあるのです。そうしたら、いつですかと言うたら大体このぐらいにならないとちょっと優先順位もあるからといってある程度説明責任も僕らありますし、地域の人もより早い情報を知り得たいわけです。だから、不確定なことは言えないというのはわかりますけれども、例えば3月5日に今回災害瓦版第1号ということで出しております。これに例えば今現在工事をやっているところはここですと、完了したところはここですと、では次には大体このあたりを攻めますよとか色分けをすとかというふうな手段をとれば、ある程度地域の皆さんがではそろそろうちが来る、丸があるから来るのだなとかというふうにわかり得るのですね。そういう情報がやっぱり市民からしたら欲しいのではないのかなと思うのです。これ、先ほどの話から聞くと定期的にこの瓦版というのは出されるわけです。これ、この議員のボックスに入っていたわけですけど、市民の皆様にも極端なこと言えば全戸配るぐらいの勢いがあったら僕もいいと思うのですよね、そういった情報を含めた上で。そういうことに関してはどういうふうにお考えでしょうか。

委員長（堀越賢二君） 建設部長。

建設部長（有本圭司君） こちらの先ほど説明いたしました竹原の災害復旧瓦版、今回第1号という形で、まずは1月で査定が終わったので、査定が終わりました、それからあと竹原市内の被害状況とか件数とか全体的な流れを掲載しております。裏面には竹原市内の公共土木であったり農業施設、それからあと下側には広島県が所管する竹原市内の国道432号であったり賀茂川とか本川の被害状況を掲載させていただいております。第2号については、今内部で考えているのは、先ほど御指摘がございました各今度は図面をつけてまして工事の今後の見通しとか進捗状況を4月号、一応そういったことで今検討いたしております。

こちらにつきましては、今回5日の広報とあわせて回覧でという形で各1,000部ほど印刷いたしまして、各地域の自治会長さんをお願いして回覧でこれを見ていただくようにしていますので、そういったことで4月号については今そういった今後のジャッジの予定とか、それから4月以降については2カ月に1回ほど、今度は工事の進捗状況含めて情報発信をしていきたいというふうに考えていますので、御理解のほどよろしく願いいたします。

委員長（堀越賢二君） 川本委員。

委員（川本 円君） 検討ではなくてやってください、非常に。それで、回覧だけでしか回っていないのですね、これは。いや、やっぱり回覧だったら情報が遅くなりますから、新鮮な情報をより早く伝える意味では全戸配るぐらいの勢いがあっていいと思いますけど、どう思いますか。

委員長（堀越賢二君） 建設部長。

建設部長（有本圭司君） 一応、広報に掲載できることについては広報に掲載をして、それ以外広報に掲載できないことについては、やはり広報ということになりますと締め切りが2カ月前ぐらいまでに原稿をつくらなくてはいけないというようなこともありますので、こういった瓦版でしたら前の日ぐらいまでにある程度整理すれば、今回も前の日に実は刷りました、1,000部ほど。一応棚入りさせてもらって、議員さんにも同じように棚入りさせてもらったのですが、そういった形、新しい情報で回覧して皆さんに知っていただくという手法であれば、こういったことでちょっと取組させていただきたいというふうに思っていますので、御理解のほどお願いいたします。

委員長（堀越賢二君） 費用的なものもありますからね。

委員（川本 円君） 回覧でしかしない。

建設部長（有本圭司君） 今のところは回覧で一応考えています。それとあと追加なのですが、一応市のホームページでも見れるようになっていきますので、市のホームページで見ていただくと。やはりなかなかいろいろ御意見を聞いたら、高齢者の方はなかなかホームページとかネットで見る機会が少ないということをお聞きしたので、何とか紙で印刷して回覧して見ていただくということになりましたので、御理解のほどお願いいたします。

委員長（堀越賢二君） 川本委員。

委員（川本 円君） ごめんなさい、何回も。しつこいようなのですが、そうしたらでは広報にこれを入れるという手段もできますよね。

建設部長（有本圭司君） 2カ月遅れます。

委員（川本 円君） 回覧ではなくても、だから今ホームページにも出ているとかという話、でもここの被災地域の多さを見ても、かなり大変失礼な言い方かもしれないですけど、余りインターネットの調っている地域が被災はしていないのですよね、やっぱり北部が中心が多いわけでしょ。なかなかお年寄りが住んでいるところが被災していると僕は思

っているのです。その家にインターネットをちゃんとつなげているか、そうは思いません。やっぱり紙媒体というのが非常に大事になってくるわけですね。回覧で済ませるとするのは僕は納得いきません。できるだけ前進的に考えてください、お願いします。どうでしょう、そのことについて。

委員長（堀越賢二君） 建設部長。

建設部長（有本圭司君） 実は先ほど担当課長の方から話があったのですが、年末から年始にかけて各要望が出ている、今回の災害で要望が出ている自治会長に対して、私と参事の方で意見交換をしようという形で、まずは竹原市が11月に策定いたしましたこういった復興・復旧プランつくりましたということで、この中の説明をさせていただきました。これについて市のホームページの方で掲載してあるのですが、なかなか市のホームページも見ないということなので、それでは自治会長さんに聞いたら、自治会としてはこういったのをでは回覧で回そうというふうに御協力いただいたので、自治会長さんの意向を踏まえて、ではこういったのも一応瓦版というのを今後考えていきたいので回覧でもお願いできますかということで話をした中で、一つこういう発想が出たということで御理解をいただきたい。まずは全部刷ればいいのですが、なかなかこれを別個に毎月とか2カ月に1遍刷るということになりますとやっぱり経費面もございますので、その辺も踏まえてまずは回覧で取組させていただこうということで進めさせていただいていますので、御理解のほどよろしく願いいたします。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありますか。

松本委員。

委員（松本 進君） 災害復旧工事費の中に、先ほど関連で質問したのですが、本川に限定してお尋ねしたいと思うのです。それで、費用の中に本川の浚渫費用、それは含まれているのかどうかから聞きたい。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 二級河川本川は管理者は広島県でございまして、大きな浚渫につきましては県の方で対応するというので、今回かなり河川が埋伏しましたが、基準としては河川断面の30%以上の堆積があったところを浚渫ということが基準となっております。言われるように道の駅の田ノ浦川と本川が合流するところ、かなり堆積をしております。昨年の豪雨でも堆積が見受けられております。この辺につきましては県の方へ情報提供しまして、できるだけ浚渫していただくように要望してまいりますので、よろし

くお願いをいたします。

委員長（堀越賢二君） 松本委員。

委員（松本 進君） 今ちょっと課長が答弁されたのは、今言われたところ、道の駅の前等々含めては基準をその30%を超えているということで、今回撤去の対象になるというふうに理解していいのでしょうか。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） これは測量をしてみないと確かなことは言えないのですが、今の状況では1割から2割の堆積のような状況でございますが、合流する地点でございますので、その辺は基準以下であってもそういう形で市の方としては県に要望してまいりたいと思っております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 松本委員。

委員（松本 進君） 是非そういう撤去の前向きな方向といたしますか、対応していただきたいと。

次の分、今回この瓦版の資料で相当大きな被災箇所が起こって、先ほどいろいろる質問もありました。原則で、先ほどちょっと答弁があったような気もするのですが、例えば河川の今度の工事の対象というのは、大原則として壊れたところをもとに戻すというか、というのでいろいろ後は強靱化とか一緒にやった方が私は合理的なと思うのですけれども、一応原則としては壊れたところを災害から早く復旧するということの費用だというふうに理解していいですか。

委員長（堀越賢二君） 既に答弁はあったと思いますが、そういうことだと思います。

松本委員。

委員（松本 進君） 確認しておきたいなど。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 原状回復が基本となります。

以上です。

委員（松本 進君） はい、わかりました。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは、次のページ、244、245の農林水産施設災害復旧

費について、質疑のある方は挙手願います。

下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 済みません。農業に農林水産施設災害復旧費， 244でお伺いをします。

公共事業と同じようなことを聞くわけでございますが，復旧瓦版によりますと117件，全てのということで今の被害のが出ています。これは40万円以上ということで出ていますが，この中で今現在市が取り組んでいる状況について御説明をお願いします。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） こちら，農林災害117カ所，1件は林道災となります。こちら林道は三津仁賀林道でございます。こちらはもう発注をして業者も決まったような状態で，今後工事に取りかかるということでございます。農業施設の116カ所，このうち現在6カ所を工事発注をしております。残り110カ所，今後発注に向けて進めていきたいと考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 今から暖かくなって，農家の人は農業関係について水路がどうなるのだ，田んぼがどうなるのだという不安も大変出てくると思うので，いろいろな説明会等いろいろな会議はあろうと思いますが，そういうところとか現地へ出向いて行って，工事が1年，2年かかるところもあるかもわかりませんので，そういうところはしっかりと地域へ出て説明していただきたいし，できれば早い時期にやっていただきたいということと，本年度についてももう既に肥料，農薬，苗等の準備等いろいろ今迫ってきておりますので，その辺も含めてしっかりとした対応をしていただくようによろしく申し上げますが，その辺についてよろしく願いいたします。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） このたびの災害では農地災害，特に田，畑については80カ所というかなり多くの被災を受けております。我々としても一日でも早い復旧を心がけてはおりますが，規模的にもまた数的にも限界がございます。業者の数も限られております。そうはいいまして，農業者の方は今年つくりたいという御意向もお聞きしておりますので，できるだけ1件でも2件でも工事が終わるように努めてまいりますので，御理解のほどよろしく願いをいたします。

委員長（堀越賢二君） 下垣内委員。

委員（下垣内和春君） 最後にしますけれども、やはりそれはしっかり説明会、3月20日にも農振区長の会議とかいろんな会議があろうと思いますが、そういうところでしっかりと説明をしていただき、農家の方にしっかり出て行って説明を、今後していただきますようによろしくお願いいたします。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 3月20日の農振会、こちら我々事業課の方も出向いて説明をしていきたいと考えておりますので、御理解のほどよろしくお願いをいたします。

委員長（堀越賢二君） 高重委員。

委員（高重洋介君） 午前中、朝一番に質問させていただいたのですが、農業用水路なのですが、小規模な被害、40万円以下については災害の中には含まれないということですが、実はこの中で予算が組まれていますよということで質問をさせていただきます。

40万円以上の工事、水路です、15カ所、297万4,000円とありますが、小規模な被害の場所というのは多分おそらくとてつもない箇所があると思います。これから農業が始まっていくわけですが、水というものがないととてもじゃないですけど畑にしるまた田んぼにしる物は育たないということで、農家の方々は本当にどのようにこれからなるのかなというような不安をととても抱えております。特に北部地区には、大打撃ではありませんが本当にひどい状況、また我々の宮原の方でもよく相談を受けますし、小梨の方々からもそういう相談を受けております。そこでこの災害の中の予算に入るとということで、おそらく材料費とかその辺の物がそこへ入っているのかなと思うのですが、例えば水中ポンプを何百メートルもホースで引っ張って水をくみ上げるようなところもありますけど、例えばそういうところのホースとかはやはり個人の財産になるのでそういう予算から出ないよということなのでしょうか。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） こちら農業の工事請負費の中で補助災害で対応するものが、原材料についてはこの予算の工事請負の中では計上しておりません。通常の原材料、先ほどのところで原材料がございました。それについては農業の維持と経営の安定という観点からしましても、それは原材料支給で対応しようということで。

委員（高重洋介君） U字溝とか。

建設課長（大田哲也君） はい、U字溝であるとか、生コンであるとか、それは原材料支

給ということで対応させていただきたいと考えております。

委員長（堀越賢二君） 高重委員。

委員（高重洋介君） 何が申し上げたいかといいますと、小規模な被害ということで、東広島の方はこの40万円以下の工事、先に工事を行って後から市がそれを支払うという償還払いですか、そういう制度があります。同じこの広島県内、同じ災害を受けて東広島にあって竹原市ではできない、なぜかというのが正直農家の方から言われておまして、災害当初土砂の撤去もそういった面があったと思います。結局は撤去しますよというようなところで市民の皆さんも安心はされたのですが、ここについては今後そのような小規模な被害を、例えば先に工事を行って後から竹原市の方が補助をするというような制度ができるのかできないのかお聞きします。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 今の制度では、今までのやり方でいくと、市が業者に依頼してそれのかかった費用の負担の条例に定めている分担金徴収条例に定めている金額を受益者から負担していただくということで、先ほど東広島については工事を頼んで、その頼んだ金額の80%を市が負担して、20%が受益者が負担するというような制度を今回新たに制度をつくられたというのをお聞きしております。

竹原市としても一日も早い、そうした小規模な修繕についてはそうして早くできる方法であれば、東広島の状況を見ながら竹原市もそういう制度でいけるような形で取り組んでいきたいと、検討していきたいと考えております。

委員長（堀越賢二君） 高重委員。

委員（高重洋介君） 3回目なので最後にさせていただきます。

時間がないのですね、これ。もう4月、5月には田んぼに水を引かなくてはいけないというようなことになります。是非、もうすぐにでも取り入れて工事にかかれるように、確かに業者の数が足りないということではあるのですが、まずは制度をつくるのが先なので、そこは制度をつくっていただきたいと思います。部長の方からもし何かあればお願いいたします。

委員長（堀越賢二君） 建設部長。

建設部長（有本圭司君） 制度の御指摘の件でございますが、竹原市としてすぐできることをやる検討してまいりたいと、早急に検討してまいりたいというふうに考えていますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは、特別会計に移ります。

特別会計は、328ページ、港湾事業特別会計、こちらの歳入歳出の順に審査をしてまいります。

まず、歳入、328ページ、329ページの使用料、港湾使用料となります。

宇野委員。

委員（宇野武則君） 失礼します。

これは、この年間の使用料ですよね、港湾使用料、3,341万6,000円か。今まではプールしているのかどうか、残ったら次年度へ。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） こちら港湾特会は、県の港湾管理を市が一部委託を受けて港湾使用料をもって管理をしているものでございます。

現在この管理の量が2分の1以上たまれば、そのたまったものは県にお返ししなければいけないということで、現在のところは2分の1以上は執行しているということで、県に返すということは現在のところはしておりません。

以上です。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） 1件の工事が単独でできるのは80万円ぐらいだったろうと思うのですが、ずっとプールしてから次年度へ繰り越して、次年度工事が少し大型になるものについてはそこから支出するというようなことをずっとやってきたのですが、そこらの点について。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 今回修繕料2,000万円、こちらちょっと説明が飛んでよろしいですか。これは関連する333ページになるのですが、よろしいですか。

委員長（堀越賢二君） 順に、使用料について。

建設課長（大田哲也君） わかりました。

使用料については、今回の予算では工事ではなく修繕料として予算計上させていただいております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） いいです。

委員長（堀越賢二君） よろしいですか。

ほかに質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） 続きまして、同ページの県支出金の県委託金の中の1番、土木費委託金。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） よろしいですか。

それでは、その下の繰越金。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） その下の雑入。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） ないようですので、歳出へ移ります。

港湾費、330ページから333ページ、港湾管理費、これの1番、港湾管理事務に要する経費のみとします。

質疑はありませんか。

宇野委員。

委員（宇野武則君） この港湾管理のための浚渫。10年は掘っているとは思わないと思うのですが。港湾、昔、藤村さんがおった最後だろうと思うのですが、今県全体で浚渫費が5,000万円ぐらいになっているのではないのかと思うのですが、何かこの……。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員、これが1番の港湾管理事務に要する経費のみとなっておりますので、その次となります。

委員（宇野武則君） はいはい。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） では続きまして、2番の港湾整備費、332ページ、333ページ、先ほどのところになります。

宇野委員。

委員（宇野武則君） 浚渫が、貿易港としたら非常に浅いのだが。大体港内だったら一番深いところ6メートル、中に入ると2メートルぐらいのところがあるのだが。本来もう一

般の七、八百トンの船といえども入出港不可能な、だから三井入った船でも半分ぐらい荷役すると出ないといけないような状況だが、そこらの調査と浚渫の事業の要望というのはどのようにしているのか。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 港湾整備の中での浚渫でございます。

こちら今回この予算に上げております2、100万円は、市が委託を受けて使えるのが100万円以下の修繕となっております。委員さんが言われるように大きな浚渫工事、これについては県の方で行うということで、以前も内港の方、浚渫を行った経緯がございます。あれからもう10年たっております。そうした面からも県の方へは、まずは調査していただいて、浅いところがあれば浚渫をしていただくようお願いをしていきたいと考えております。

以上でございます。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） 浚渫費、相当減額になっておりますのでしょっちゅうお願いしていないとなかなかやってもらえないと。それから、大体海田ぐらいまで運搬すると浚渫費の中で運搬費が半分かかるのです。海田から向こうへ行くと半分。ずっと今まで掘ってもらっていた、あの三原の港湾整備の中で入れさせてもらっていた、あれは港湾を遮断するまではずっと船で入って浚渫土を入れさせてもらったのでね、かなり安くついたので。だから、あの中四国フェリーがおった折には毎年掘ってもらっていたが。実際一遍レーダーで中を見て、貿易港の役割を担えるのかどうかというようなことを港湾事務所へ言って把握して、やっぱり適時にやらないと中で事故なんかあると困るので、明神の出たところなんかもう保安庁があそこで座礁したのだから。だから、あれずっと半分ぐらいまではもうゼロメートルぐらいだからね、マイナス。そこらもよう把握して、やっぱりそういう状況をしっかり説明できるような調査をして県にお願いしないと、ただ浚渫してくれではやっぱり説得力がないから、もうちょっとしっかり調査しろと。今とん譲与税なんか皆委託しているのでしょう、あの大阪の方の会社へ。だから、港湾事務所余り仕事ないはずなのだが。まあ、よろしく。

委員長（堀越賢二君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 航路の浚渫、航路の安全からも大事なことだと思います。こちらについては県と連携して対応させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いをい

たします。

委員長（堀越賢二君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） では、次のページ， 334， 335， 予備費について。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） ないようですので、次に公共下水道事業特別会計に移ります。

同じく歳入歳出の順に審査をまいります。

ページ数は352ページの352， 353， 分担金及び負担金の分担金， 1. 下水道分担金について， 質疑のある方は挙手願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） 同ページ， 下水道負担金。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） 続きまして， 使用料。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） 手数料。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） では， 352と53の中で質疑のある方は挙手願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは次， ページをめくっていただいて， 財産貸付収入， こちらについて質疑のある方は挙手願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは， 歳出に移ります。

公共下水道費の総務費， 一般管理費， 356， 357ページの1番， 人事管理に要する経費は除きます。

松本委員。

委員（松本 進君） この管理費の中に入ると思うのですが， これまで汚水処理計画ができて今後の対応がされると思うのですが， これまで汚水処理の計画というのですか， これはどこまでできて， それを今後対応というのか， そのの枠をちょっと聞きたいなということなのです。

委員長（堀越賢二君） 下水道課長。

下水道課長（藤本嗣正君） 汚水処理構想の今の進捗具合という質問だと思います。

汚水処理構想につきましては昨年度来説明をさせていただきまして、昨年6月にパブリックコメントを行いまして一応意見集約をしました。意見集約した結果、意見がないということでこのまま委員会の方に諮って公表しようとしていましたが、今7月の豪雨災害で現在とまってまして、ある程度落ちついてきましたらその汚水処理構想を公表していこうというふうに、委員会を経て発表していこうと思っております。面積に関しましては965.7から222.5ということでかなりスモール、今後10年でできる区域ということで、区域を狭めて事業実施していこうということで考えております。今のところそこまです。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） では、次のページ、358、359、施設管理費、こちらの2番、施設管理に要する経費のみとなります。

宇野委員。

委員（宇野武則君） 雨水の方です、雨水。あそこの管が大体半分ぐらいさびがきているのだが。これ放っといたらまた穴があくのだが。早目に早目にさびを取って塗装を上からすれば相当まだ寿命があると思うのだが。そこらの委託している業者にどのように把握しているのですか。

委員長（堀越賢二君） 下水道課長。

下水道課長（藤本嗣正君） 雨水の管渠の老朽化とかさびについての御質問です。

維持管理につきまして、今現在包括管理で3年で今業者に包括管理で委託契約しております。その中で年次点検とか梅雨前の点検等行いまして、今回の修繕業務の中で不具合があるところに関しては早急にと、また不具合が出そうなところも早目に予防保存ということで修繕の方はかけながら支点の延命化は図っているところでございます。今後もそういうさびとかも含めて点検して、早目に対応していく予定です。

委員長（堀越賢二君） 宇野委員。

委員（宇野武則君） どっちにしても塩分だからね、相手が。だから、どういう素材を使っているのかわからないが、例えば電発さんなんかの管の塗料というのは全然違う。長もちがする。だから、塗料も一般の塗料ではだめなんよ。だから、ちょっと高くついても長くもてばその方がプラスになるから、そこらも委託しているのでしょうか。だから、そこら

よく連携もとって私らしょっちゅういつているから毛木も、だからよく連携とって長もちするようにしないとあれ全部取りかえるというたらまた高くつくけどね、今半分ぐらいですよ、上はいいのだけど下が相当さびているから。今の間に手当て。

委員長（堀越賢二君） 下水道課長。

下水道課長（藤本嗣正君） 施設のことに関しまして、先ほど委員さんの方から御提言のありました塗料、そこら辺も調査研究させてもらって、長期的にライフサイクルコスト、何回塗りかえて長もちするかというところもちよつと調査させてもらって、業者の方と対応してまいりたいと思います。

委員長（堀越賢二君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） それでは、次のページ、360、361の建設費、こちらの2番、公共下水道事業に要する経費のみとします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） では、次のページ、362、363、公債費元金。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） 続いて、利子。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） 次のページ、364から365、予備費。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（堀越賢二君） よろしいでしょうか。

では、これをもって建設部の個別審査を終了いたします。

以上で各部における個別審査を終了いたします。

次回は、3月12日火曜日10時から全体審査を議場にて行います。審査方法について再度確認をいたします。若い期順に質疑を行うこととし、全ての会計に対し一括質疑の1人3回まで、答弁を含む1時間を限度といたします。

また、質疑については事前通告とし、明日3月8日金曜日の16時までを提出期限といたしますので、よろしくお願いいたします。

以上で第5回予算特別委員会を終了いたします。

御苦労さまでした。

午後1時51分 散会

